

黙示録22章17節「来て、飲みなさい」

1A いのちの水の川

1B エデンの園

2B エゼキエルの幻

3B 天のエルサレム

4B キリストご自身

2A 渴く者

1B 神への渴き

2B いのちとしての水

1C 荒野での水

2C 貯水槽の水

3C 泉からの水

3B 代わりのもの

1C サマリアの女

2C イスラエルの民

3A ただで受ける水

1B 豊かな恵み

2B 無益な努力

本文

今朝は、聖書の最後のページをお開きください！聖書通読の学びは、ついに今日、黙示録22章に入ります。午後に1節ずつ学びますが、今朝は17節に注目します。「御霊と花嫁が言う。「来てください。」これを聞く者も「来てください」と言いなさい。渴く者は来なさい。いのちの水が欲しい者は、ただで受けなさい。」渴く者は来なさい、いのちの水が欲しい者はただで受けなさいという呼びかけで、黙示録が終わります。

私たちは前回、21章から天のエルサレムについて学びました。その時に、神が人に対して持つておられる、ご計画、神が最も願われていることについてお話ししました。それが、私たちと共に住むということです。エデンの園から始まり、荒野の幕屋、エルサレムの神殿、そして聖霊による信者の間のご臨在、そして主ご自身が天に住まいを用意して、私たちのために戻ってこられます。そして最後、新天新地に天からの住まいを降ろしてくださるのです。「21:3 見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。」このようにして、共に住むことによって、この方を親しく知っていくこと、そのものが、永遠のいのちだと学びました。

1A いのちの水の川

そして、私たちはもう一つ、神が共に住まわれることによって、願っておられるいのちについて、「流れる水」があるのだということを今朝は学んでみたいと思います。神は、私たちと共に住みたいと願われており、そこから、いのちの水が流れ出てほしいと願われているのです。それが、「**渇く者は来なさい。いのちの水が欲しい者は、ただで受けなさい**」という言葉です。

この呼びかけは、天のエルサレムの最後の情景から来ています。私たちは天の都エルサレムについて、それが宝石の輝きによる神の栄光が特徴であることを前回、見ました。そして 22 章に入ると、その都の中央から、いのちの水の川が流れているのです。「22:1-2 御使いはまた、水晶のように輝く、いのちの水の川を私に見せた。川は神と子羊の御座から出て、都の大通りの中央を流れていた。こちら側にも、あちら側にも、十二の実をならせるいのちの木があって、毎月一つの実を結んでいた。その木の葉は諸国の民を癒やした。」永遠のいのちは、このように神ご自身から水が流れ出ているところに表れています。

1B エデンの園

神が人のために設けてくださったエデンの園のことを思い出してください。エデンの園の中に神は歩かれていましたが、その中央には、いのちの木があり、それから四つの川が流れていました。「創 2:10-14 一つの川がエデンから湧き出て、園を潤していた。それは園から分かれて、四つの源流となっていた。11 第一のものの名はピション。それはハビラの全土を巡って流れていた。そこには金があった。12 その地の金は良質で、そこにはベドラハとショハム石もあった。13 第二の川の名はギホン。それはクシュの全土を巡って流れていた。14 第三の川の名はティグリス。それはアッシュルの東を流れていた。第四の川、それはユーフラテスである。」

2B エゼキエルの幻

そして、主ご自身が来られ、神の国を建てられる時、神殿の中から水が出て来て、それが川となり、死海に流れる姿が描かれています。とても、すばらしい、いのちあふれる幻なので、長い箇所ですが、お読みしたいと思います。47 章 1 節から 12 節です。

¹ 彼は私を神殿の入り口に連れ戻した。見ると、水が神殿の敷居の下から東の方へと流れ出ていた。神殿が東に向いていたからである。その水は祭壇の南、神殿の右側の下から流れていた。² 次に、彼は私を北の門から連れ出し、外を回らせ、東向きの外門に行かせた。見ると、水は右側から流れ出ていた。

このように、主のおられる神殿から水が流れ出ていました。

³ その人は手に測り縄を持って東の方に出て行き、千キュビトを測り、私にその水を渡らせると、そ

れは足首までであった。⁴ 彼がさらに千キュビトを測り、私にその水を渡らせると、水は膝に達した。彼がさらに千キュビトを測り、私を渡らせると、水は腰に達した。⁵ 彼がさらに千キュビトを測ると、水かさが増して渡るこのできない川となった。川は泳げるほどになり、渡るこのできない川となった。

すごいですね、ちょろちょろ流れていたものが、もう足のつかない泳げるほどの川になっています。

⁶ 彼は私に「人の子よ、あなたはこれを見たか」と言って、私を川の岸に連れ帰った。⁷ 私が帰って来て見ると、川の両岸に非常に多くの木があった。⁸ 彼は私に言った。「この水は東の地域に流れて行き、アラバに下って海に入る。海に注ぎ込まれると、その水は良くなる。⁹ この川が流れて行くどこでも、そこに群がるあらゆる生物は生き、非常に多くの魚がいるようになる。この水が入ると、その水が良くなるからである。この川が入るところでは、すべてのものが生きる。¹⁰ 漁師たちは、そのほとりに立つ。エン・ゲディからエン・エグライムまでが網を干す場所になる。その魚は大海の魚のように、種類が非常に多くなる。¹¹ しかし、その沢と沼は水が良くならず、塩を取るのに使われる。

今も死海があります。塩の海とも呼ばれますが、生き物は住んでいません。しかし、この神殿からの水によって、死んだ海が生かされるのです。

¹² 川のほとりには、こちら側にもあちら側にも、あらゆる果樹が生長し、その葉も枯れず、実も絶えることがなく、毎月、新しい実をつける。その水が聖所から流れ出ているからである。その実は食物となり、その葉は薬となる。」

エデンの園に、いのちの木があり、その実を取って食べることもできましたが、ここではさらに、葉が枯れず、それが薬となります。毎月、新しい実が結ばれます。それが、聖所から出ているからだと言っています。

3B 天のエルサレム

そして、この幻ととても似た形で、新しい天と新しい地において、御座から、いのちの水の川が流れ出て、同じように毎月、実が結ばれ、そして葉が諸国の民を癒すのです。

4B キリストご自身

そして、この方が世に来られた時に、私たちに御霊によって、いのちの水が与えられることを約束されたのです。ヨハネは、二つの出来事で主の約束を書き記しています。一つは、サマリアの女に対することばです。「ヨハ 4:13-14 この水を飲む人はみな、また渴きます。¹⁴ しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水は、その人の内

で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」そう、主が御霊によって私たちの内におられ、共におられる主からのいのちの水が、信じる者から出てくるのです。永遠のいのちへと至る水です。

そして、仮庵の祭りの最後の日に、主が立ち上がった大声で宣言されました。「7:37-38 **だれでも** 渴いているなら、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書が言っているとおり、その人の心の奥底から、生ける水の川が流れ出るようになります。」ここでも、信じる者から、その心の奥底から、生ける水の川が流れ出ます。この後にすぐに、ヨハネは、これは御霊の約束だと解説しています。

2A 渴く者

サマリアの女に対しても、また仮庵の祭りにおいても、主は、「渴いている者」と言われました。そして今、主の最後の呼びかけが、「**渴く者は来なさい**」と言われたのです。

1B 神への渴き

もうお分かりのように、これは神ご自身への渴きです。詩篇 42 篇に、このような歌があります。「42:1-2 鹿が谷川の流れを慕いあえぐように 神よ 私のたましいはあなたを慕いあえぎます。2 私のたましいは 神を生ける神を求めて 渴いています。いつになれば 私は行って 神の御前に出られるのでしょうか。」

イスラエルに行きますと、涸れ川というのが多くあります。イスラエルは南半分がすべて、荒野、沙漠です。水が非常に希少です。川が流れても、あまりにも雨量が少なく、乾季には水が流れず、涸れ川となります。そのような荒野に、鹿がいます。ダビデがサウロの手から逃げていた、エン・ゲディは、死海のほとりにあります。そこは、小さなオアシスのようになっていて、木も生えています。そこに多くのアイベックスがいます。けれども、それはごくまれで、鹿が荒野にさまよっていて、水にあえいでいるのですが、涸れ川に行っても、そこに水がなかったというような状態、それが、ここで言っている、「**谷川の流れを慕いあえぐように**」であります。

そのようにして、私たちは神に対して慕いあえいでいるのだということです。違う言葉で、パスカルという人が言いました。「人の心の中には神によってしか埋められない空間がある。」

2B いのちとしての水

今、話しましたように、イスラエルにいと、なぜ水が、いのちとみなされるかがよくわかります。

1C 荒野での水

水は、日本ではかなり豊富にあるので、当たり前存在するものなのですが、イスラエルでは雨量がとにかく少ないので、ものすごい大切にされます。近現代のイスラエルデモ、灌漑技術がとて

つもなく発達しており、生活排水の再浄化による農業用水への転換も進んでいますし、コンピューターに制御して、作物に点滴で水を落しています。水道水の半分は、もと海水で、淡水化されたものです。ここまでしないと生きられないのです。ですから、水というのが、そのままのちなのだというのであります。

2C 貯水槽の水

そんなイスラエルでは、遺跡に、数多く貯水槽の跡が発掘されます。死海のほとりには、マサダという要塞があります。かつてヘロデがここを別荘のように使っていました。ローマ式の風呂もありました。荒野のどまんなか、しかも高くそびえる所にどのようにして水を確保したのか？なのですが、年にわずかに降る雨をためるための、岩を切り出した樋のようなものと、その先に貯水する穴が掘られているからです。それで、水がかなり確保されたようです。

けれども、水は溜めておけば澱んできます。しかも、貯水槽として掘った穴が、欠けていた場合は、徐々にそこから水が漏れていきます。そこで、預言者エレミヤが、イスラエルの民が偶像礼拝に走っていた時に、このように叫びました。「2:13 わたしの民は二つの悪を行った。いのちの水の泉であるわたしを捨て、多くの水溜めを自分たちのために掘ったのだ。水を溜めることのできない、壊れた水溜めを。」偶像礼拝については、それをいくら行っても、壊れた水溜めのように空しさだけが残ると預言したのです。

3C 泉からの水

それに対して、神については「いのちの水の泉であるわたし」と言っていますね。そうです、水はいのちであります。泉からの水がもっとも、いのちが与えられますね。そこから絶え間なく、いつまでも水が出てきますし、何よりも流れているのです。サマリアの女に対するイエスのみことばにも、「わたしが与える水は、その人の内で泉となり」とありましたね。そう、なぜいのちがあるのか？それは動いているからです。溜まっている水がとまっていて、澱んでいるのに対して、泉の水は、いつも動いています。

これが、神との関係です。絶えず、この方につながっていることによって、いのちが流れるのであって、止まっているところにはいのちが現れません。

3B 代わりのもの

1C サマリアの女

ところで、サマリアの女は、イエスに、生ける水のことを聞いた時に、そんな水があるならば、わざわざ井戸に来て水を汲みにこなくてよくなるから、その水をくださいと願いました。けれども、イエスは話題を変えられました。「ヨハ 4:16-18 イエスは彼女に言われた。「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」17 彼女は答えた。「私には夫がいません。」イエスは言われた。「自分には

夫がいない、と言ったのは、そのとおりです。18 あなたには夫が五人いましたが、今一緒にいるのは夫ではないのですから。あなたは本当のことを言いました。」

そう、この女が気づいていなかったのは、彼女が、男と関係によって、神への渇きを満たそうとしていたことです。彼女が男をとっかえ、ひっかえしているのは、自分の心に渇きがあり、それは神にしかいやすことができないのに、男に向かったのです。人は、こうやって、神への渇きを、物質的なものや、感情的なもので埋めようとします。けれども、イエスが女に、「この水を飲む者はまた渇きます」と言われたように、欲すればそれだけ、また渇くのです。渇きが言えることはありません。

2C イスラエルの民

イスラエルの民も、この過ちを犯していました。欠けがあって、壊れている水溜めのように、どんなにそれを求めても、もっと渇くだけで、行きつくところまで行ってしまうのです。それで、どんどん過激になり、しまいには、偶像の神々のために、自分たちの生まれてきた赤子を、火によって熱くした偶像の上に置いて、献げたのです。

3A ただで受ける水

ただ、主に振り向いてくれさえすれば、主に立ち返ってくれさえすれば、そこから、水が流れ出します。それを、「いのちの水が欲しい者は、ただで受けなさい。」という言葉で言い表しておられます。ただ、なのです。そのまま主が、いのちの水を流してくださるのです。主がニコデモに語られたことばにも、その、ただで受けなさいという思いが込められています。「ヨハ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」一人として滅びることがない、というところに、主が今にでも、ご自身のいのちを分け与えたいという思いがあります。

1B 豊かな恵み

「イザ 55:6-7 【主】を求めよ、お会いできる間に。呼び求めよ、近くにおられるうちに。7 悪しき者は自分の道を、不法者は自分のはかりごとを捨て去れ。【主】に帰れ。そうすれば、主はあわれんでくださる。私たちの神に帰れ。豊かに赦してくださるから。」主に求めれば、主が必ずあってくださいます。主は、豊かに赦してくださるのです。

2B 無益な努力

この恵みに対して、どうしてか、私たちは自分の努力で別のことを求めてしまいます。「イザ 55:1-3 「ああ、渇いている者はみな、水を求めて出て来るがよい。金のない者も。さあ、穀物を買って食べよ。さあ、金を払わないで、穀物を買え。代価を払わないで、ぶどう酒と乳を。2 なぜ、あなたがたは、食糧にもならないもののために金を払い、腹を満たさないもののために労するのか。わたしによく聞き従い、良いものを食べよ。そうすれば、あなたがたは脂肪で元気づく。3 耳を傾け、わ

たしのところに出て来い。聞け。そうすれば、あなたがたは生きる。わたしはあなたがたと永遠の契約を結ぶ。それは、ダビデへの確かに真実な約束である。」

これが、主の思いです。代価を払わないで、水を求めて出て来なさいということです。渇きがあるのだから、そうしなさいと言われます。ところが、それ以外のところに求めて、しかも、労して求めようとします。高額なお金を払うかもしれません。エネルギーを使い果たすかもしれません。そうではなく、ただ主のところに行くのです。主の命じられていることに従うのです。そうすれば、豊かにされます。これが、永遠のいのちです。